

## 平成29年の幕開け 今年の夢・目標は決まりましたか？



あけましておめでとうございます。今年も、本校はもちろん、日本全国、世界中の人々にとって明るい話題の多い、笑顔があふれる一年になることを願ってやみません。子どもたちには、自分が立てた目標や夢に向かって、着実に前進して行ってほしいと思っています。3学期も引き続き、これまで培ってきた教育活動を基盤に、しっかりと先を見据えた教育活動を推進していきたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

なお、この時期は例年インフルエンザが流行ってきます。寒さも厳しさを増してくると思いますが、予防対策として手洗いとうがいの励行にご協力をお願いします。

年頭に当たり、本校の教育目標並びに大人の生活心得を再確認することにより、学校と家庭が力を合わせて子どもたちの健全な育成を図っていききたいと思っています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

### 中央小の学校教育目標 『心豊かにたくましく生きる子どもの育成』

- あたたかい心を持ち、仲よく協力する子ども <仲よく>
- 創造性に富み、知性豊かな子ども <かしこく>
- 健康で明るく、根気強く努力する子ども <元気よく>

### 子どもの健全育成に向けた大人の生活心得(県・県教育委員会・県警察作成)

#### 「おかやまっ子を育む 大人の八か条」～大人が変われば 子どもも変わる～

- |                               |                               |
|-------------------------------|-------------------------------|
| ①生活リズム “早く起き 子どものために 朝ごはん”    | ②あいさつ “気持ちいい 朝のあいさつ 大人から”     |
| ③ルール・マナー “教えよう やっていいこと 悪いこと”  | ④感謝の気持ち “ありがとう” “ごめんなさい” を大切に |
| ⑤子どもへの関わり “手を止めて 顔を見て聴こう 子の話” | ⑥しつけ “心から しっかり褒めて きらんと叱る”     |
| ⑦子どもの見守り “どの子にも 地域みんなで 声かけを”  | ⑧地域との関わり “参加して 深める絆 地域の輪”     |

3  
学期  
始動



〔始業式で元気よく校歌斉唱〕



〔国語科で一斉読みをする1年生〕



〔算数科の問題に真剣に取り組む6年生〕



〔休憩時間に友達と楽しく遊ぶ子どもたち〕

## 「聞く」から「聴く」へ

…… 校長のつぶやき ……

今年度、子どもたちがよく成長していると実感できることのひとつが、始業式や終業式など儀式における「聞く」態度です。授業中に比べると時間は短いですが、式の時には、ほとんどの子どもが目や口を動かして話を聴くことができるようになってきています。

私は、学習の第一歩は「聞く」ことから始まると思っていますが、この「聞く」という行為は意外と難しいのです。それは、なぜでしょうか。人の話を聞くためには、①音を聞くことができる。②音の違いを聞き分けることができる。③言葉を知っている。④言葉の意味がわかる。⑤話し言葉を記憶できる。⑥話の内容がわかるなど、様々な条件が必要となります。これらの条件を、発達段階に応じて身に付けたり、訓練したりしながら、言語力や聞く力を育てていきます。しかし、これらの条件を身につけたとしても、聞く態度が身につけられていないと、聞く気持ちがなくなったりすると、話の内容や相手の気持ちをしっかりと聞き取ることはできないこととなります。日常生活の中では、コミュニケーションの手段として、読む、書く、話す、聞くというのが大半を占めていますが、一般的には「聞く」時間が一日の半分以上を占め、続いて話す、書く、読むの順番だそうです。

では、よく「聞く」子に育てていくためにはどうしたらよいでしょうか。私は、話し手である子どもよりも、むしろ大人の聞く姿勢・態度に視点をあてるのが大切ではないかと思っています。会話は相手とのキャッチボールです。野球を例に考えると、子どもが投手で大人が捕手。どこにどんな変化球を投げかけてくるかわからない球を、大人がどのようにキャッチするかが大切になります。子どもの気持ちをとりあげて上手にキャッチすることができれば、話し上手になっていくとともに、聞き上手にもなっていくことでしょう。よい聞き手がよい話し手を育てます。具体的には、何かをしていたら手を止めて、子どもの目を見て聞く。「うん」「なるほど」「そう、つらかったね」「がんばったんだね」と、気持ちを受け止めながら最後までじっくりと聞く。このように話を聞いてもらえると、子どもは受け止めてもらえる喜びとともに、安心感や信頼感も強まってきます。こうした聞き方が、「聴く」であり、ただ聞こえる、聞こえてくる「聞く」との違いです。家庭ではあまり時間的なゆとりはないかもしれませんが、大人がまず聴き上手になっているかどうかを振り返ってみることが、よく聴く子を育てる近道になるのではないかと思います。

富田さん 「いじめ防止標語」岡山県教育長賞受賞 おめでとう！

「やっちゃんて この世にいじめのない世界 まずはぼくからあなたから」